

事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 31年3月31日

2次評価日（課長等） 31年3月31日

1 事業名	水産振興事業	コード	24301
-------	--------	-----	-------

2 担当部課	部等 産業振興部	課等 農林水産課	作成者 八幡 正剛
--------	----------	----------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち		
		政策	産業の振興	施策	農林漁業の振興
		予算科目	水産振興事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	岡谷市農林水産振興事業補助金交付要綱内規		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
事業の概要 （簡潔に）	諏訪湖漁業協同組合が実施するワカサギ卵放流事業と外来魚駆除対策事業への事業補助金		
目的	対象者	諏訪湖漁業協同組合	
	意図	諏訪湖の漁業の振興	

5 事業の実施内容		*30年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容	
水産振興事業補助金		1. ワカサギ卵放流事業（1件：684,000円） 2. 外来魚駆除対策事業（1件：256,000円）	
前年度の課題への対応	関係機関と協力して、ワカサギを食べる魚食性鳥類の研究や追払いを実施した。		

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区分	28年度	29年度	30年度	31年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	補助金等事業数			単位	件
	実績値	3	3	2	
	*指標の説明				
② 成果指標（指標名）	補助金等事業数			単位	件
	目標値	3	3	2	2
	実績値	3	3	2	
	達成度	100.0%	100.0%	100.0%	
	*指標の説明	事業件数			
*目標値の設定方法の説明	過去3年間の平均値				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
① 直接事業費	940,000	940,000	940,000	940,000
経常経費	940,000	940,000	940,000	940,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
② 人件費	240,000	240,000	240,000	240,000
正規職員の人数(人)	0.03	0.03	0.03	0.03
③ 合計コスト(①+②)	1,180,000	1,180,000	1,180,000	1,180,000
前年度比		100.0%	100.0%	100.0%
財源内訳	1,180,000	1,180,000	1,180,000	1,180,000
一般財源				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	393,333	393,333	590,000	
前年度比		100.0%	150.0%	
⑤ コストに関する補足説明	水産多面的機能発揮対策事業負担金（干潟の保全等）が終了し、その事業費がワカサギ卵放流事業へ充当された。			

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
水産振興事業補助金	件数	2	2	2	2
	金額	840,000	890,000	940,000	940,000
水産多面的機能発揮対策事業負担金	件数	1	1	0	0
	金額	100,000	50,000	0	0
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	940,000	940,000	940,000	940,000
	割合	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝成果指標（項目7/住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 66.7%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 100.0%	1

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <p>大量死の要因のひとつとされた貧酸素水の拡大も見られず、ワカサギの採卵等一定量確保ができた。依然として諏訪湖に飛来する魚食性鳥類は多く、また外来魚も繁殖し、ワカサギ等漁業への影響が懸念されている。</p>
改善方法	<p>(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <p>関係機関と協力して、ワカサギを食べる魚食性鳥類の追払いや外来魚の駆除を行なう。ワカサギの漁獲量確保に重点をおくため、水産多面的機能発揮対策事業負担金は終了となり、水産振興事業補助金へ充当された。</p>
改善開始時期	平成31年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	<p>12 施策評価による31年度の優先度</p> <p>*H29年度施策評価表より転記すること</p>	B
-----------	--------	--	---